

## SRC 自主調査の調査結果について

## 2022 第二回在留外国人総合調査 「在留外国人のコロナウイルス感染症について」

## ■ 趣旨

- わが国では、在留外国人の受け入れに関して、出入国管理法が2018年12月に改正され、2019年4月から施行されています。この改正法は、在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設等を主とするもので、これにより多くの外国人の方と一緒に居住し、働く環境が整備されていくこととなります。一方で、こうした外国人を受け入れる「受入準備」や「人権意識」「多文化共生意識」等、課題を抱えています。また、外国人側も「日本の規範知識」「教育、言語、雇用、医療・保健・福祉、災害」等の知識も不足しているのが現状です。
- わが社では、これまで多くの自治体での「健康・介護・福祉・共生・観光・防災・教育」等の計画策定に携わっています。また、SDGsの理念の元、持続可能な社会を目指して、取り組む事業にもこれらの視点を含めています。こうした現状の中で、今後、生活を共にしていく「在留外国人」を対象とした総合的な調査を行うこととし、**2020年3月(第一回 在留外国人総合調査)**に引き続き、時系列調査として**2022年2月「第二回 在留外国人総合調査」を実施いたしました。**
- 今回は「在留外国人総合調査」の内、「**在留外国人のコロナウイルス感染症について**」公表いたします。

## ■ 実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター  
<https://www.surece.co.jp/contact/>  
 SRC 情報総研

## ■ 調査実施概要

- 地域調査 全国  
 但し、居住地は登録モニターの居住地に準じた。
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター  
 ※モニターはリンクオブアジアへの登録者105カ国約20,000人のパネルを活用。  
 国別対象の設定は、2021年末法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」の構成比を参照し設定した。
- 調査項目 属性項目を含めて70問
- 有効回答 999サンプル
- 調査内容 基本属性／右図参照
- 調査期間 2022年第二回調査  
 2022年（令和4年）2月2日（水）配信開始～2月22日（火）調査終了  
  
 参考:2020年第一回調査  
 2020年（令和2年）3月27日（金）配信開始～4月17日（金）調査終了

## &lt; 設問の課題分類項目 &gt;

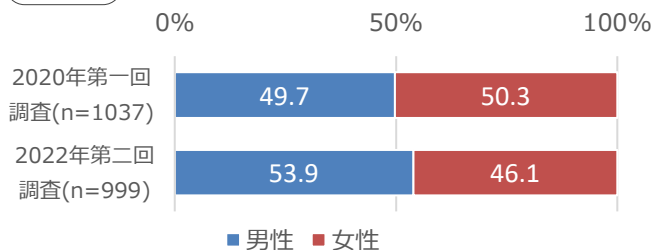
主なテーマ	内容	SDGs
収入・貧困	・ 外国人の生活感と国内での境遇	1 貧乏をなくす
保健・福祉	・ 外国人の保険(健)と健康と国内の社会システムへの適応 ・ 外国人の保証と国内の社会システムへの適応 ・ <b>コロナウイルス感染症等の防疫対策</b>	3 持続可能な成長
日本語対応・教育・いじめ	・ 外国人の教育環境といじめなどの課題及び国内の教育システムへの適応	4 質の高い教育をみんなに
ジェンダー・不平等・人権等	・ 外国人を含む共生や人権課題について	5 ジェンダー平等をすすめる 10 人や国の不平等をなくす
雇用環境・就業	・ 外国人の就業環境や働きがい及び国内の就業システムへの適応	8 豊かで持続可能な雇用を創出する
持続可能な都市	・ 外国人の住(コミュニティ)環境の課題や国内の居住及びコミュニティシステムへの適応 ・ 外国人を含む災害対策の在り方	11 持続可能な都市を創出する
平和	・ 外国人との共生や国内の法律システムへの適応	16 平和と公正な社会を創出する

## ■ 対象者属性

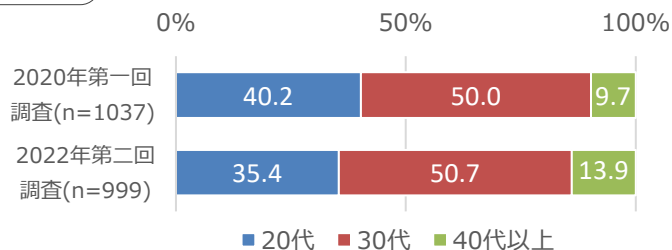
本調査の対象者の属性は下記に示します。

※ 性・年代・在留資格は「モニター」の登録属性に影響を受けているので、各種統計で公表されている割合等には合致しない。

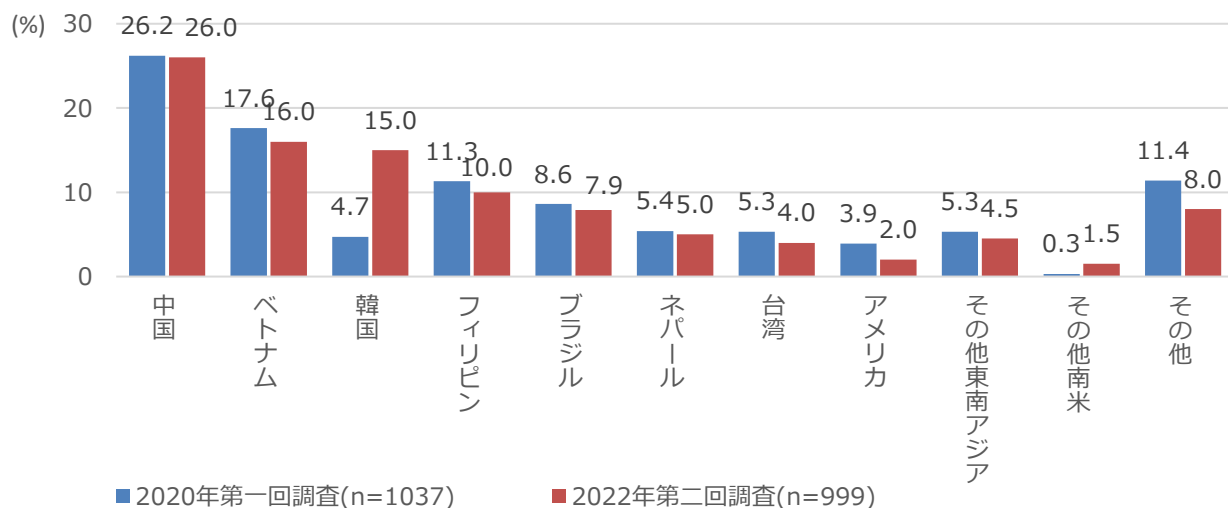
### 性別



### 年代

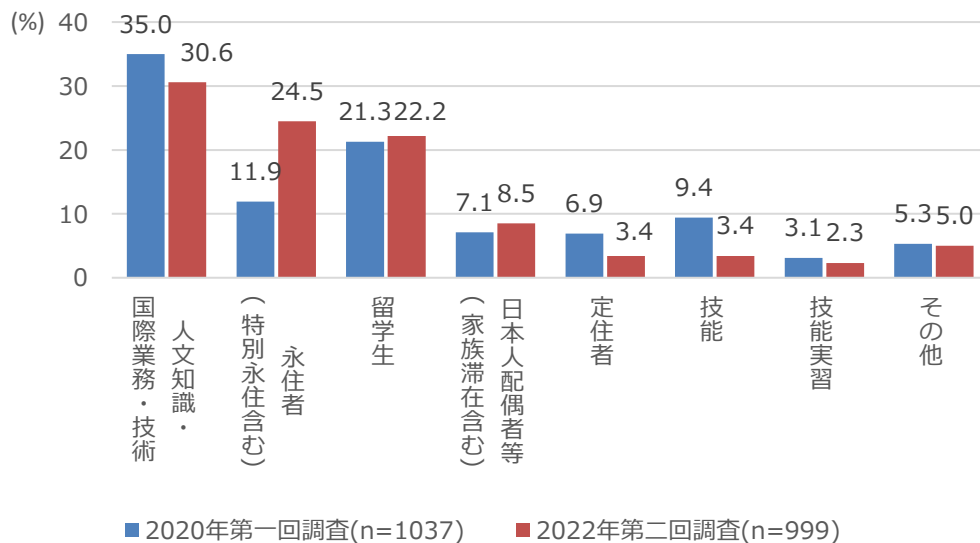


### 国籍統合



※ 国籍統合の国名は法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」統計の表記に合わせている。

### 在留資格統合



## ■ 調査結果のポイント

### 1. コロナウイルスに対する不安感 “2020年調査よりも不安感は減少”

- コロナウイルス感染症に関する「不安感」は、「やや不安を感じる」が37.7%、「とても不安を感じる」が34.0%となり、合わせて不安感を持つ人(「とても不安を感じる+やや不安を感じる」)は71.7%となる。  
但し、年代では差がみられ「とても不安を感じる」という強い不安を感じる人は「30代」に多く42.5%となっている。
- この結果を2020年の第一回調査と比較すると、第一回調査では不安感を持つ人(「とても不安を感じる+やや不安を感じる」)は85.2%であったが、今回第二回調査では71.7%と約10%以上低下している。

### 2. コロナウイルスに対する防疫行動 “女性より男性の方が取り組んでいる防疫行動が少ない”

- コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」については「手洗いやアルコール消毒」が84.6%と最も多く、次いで「咳エチケット・マスクの着用」が78.7%、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」が52.0%となり、これらが主な防疫行動となる。
- これらの防疫行動は性別でその実施(各項目への回答率)に差があり、特に、「良く触れるものの消毒や洗浄」では男性が(33.8%)より女性では50.1%となり差がある。また、「屋内の換気」では男性(46.8%)より女性では57.0%となり、この両項目においてその対策実施率は女性が男性を上回っている。

### 3. コロナウイルスに関する困難事項 “「入院措置」や「情報変理解」が主な内容”

- コロナウイルス感染症に関して困っている事項については、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」が32.2%と最も多い。次いで、「情報が刻々と変化するためついていけない」29.8%、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」で28.5%となり、この3項目が困っていることの主な内容となる。
- 一方、性別では男性の方が「テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい」や「母国語のパンフレットが無い為わかりづらい」という、日本語に対する課題が顕著にあらわれている。

### 4. コロナウイルス感染症ワクチン接種状況 “20代男性で2回目以上接種率が他よりも低い”

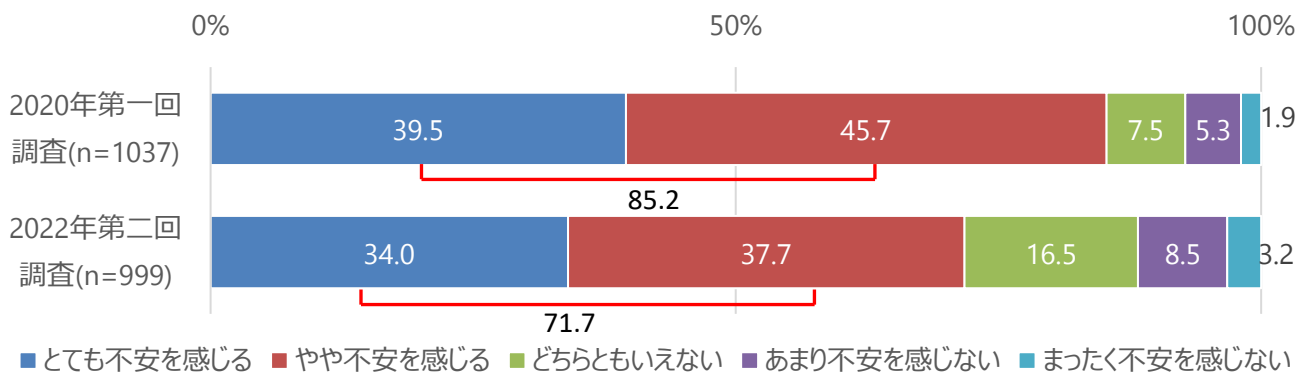
- コロナウイルス感染症の調査時点でのワクチン接種状況は「2回目の接種まで終わっている」との回答が72.3%、「3回目の接種まで終わっている」(10.6%)を加える「2回目以上の接種率」は82.9%となる。
- 性年代では「男性20代」では「2回目以上の接種率」は66.1%と他性年代より低くなっている。

## ■ コロナウイルス感染に関する不安

### 1 自分が感染する不安感は年代や出身国で若干異なる

- コロナウイルス感染症に関する「不安感」は、「やや不安を感じる」が37.7%、「とても不安を感じる」が34.0%となり、合わせて不安感を持つ人(「とても不安を感じる+やや不安を感じる」)は71.7%となる。
- この結果を2020年第一回調査と比較すると、「とても不安を感じる」が39.5%であったが、本調査では「とても不安を感じる」が34.0%となり、強い不安を持つ人割合や不安を持つ割合が低下している。
- 年代別に見ると、「とても不安を感じる」との回答は「30代」で42.5%と最も多くなり、「20代」23.2%「40代以上」30.9%と比較すると明らかに多い。
- 出身国別にみると、「とても不安を感じる」との回答は、「中国」が47.7%と最も多く、次いで「フィリピン」が37.0%「韓国」が36.0%となる。一方で、「アメリカ」では10.0%と他国と比較すると極めて不安感は低く、「あまり不安を感じない」15.0%、「全く不安を感じない」15.0%とこれを加えると30.0%と、概ね1/3が不安を感じていないことになり、出身国により極端な差がみられる。

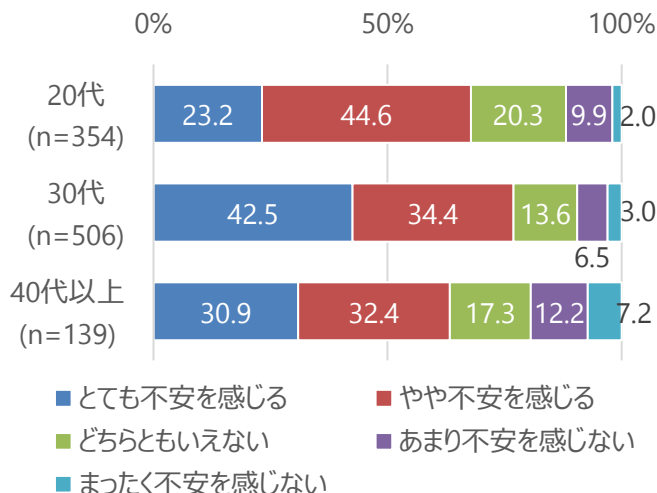
#### Q43-1 コロナウイルス感染に関する不安



#### 国籍別

	調査数	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
全体	999	34.0	37.7	16.5	8.5	3.2
中国	260	47.7	30.4	17.7	3.5	0.8
韓国	150	36.0	39.3	12.7	9.3	2.7
フィリピン	100	37.0	37.0	15.0	7.0	4.0
ブラジル	79	22.8	50.6	17.7	5.1	3.8
ベトナム	160	33.1	42.5	13.8	10.0	0.6
ネパール	50	34.0	42.0	16.0	6.0	2.0
アメリカ	20	10.0	30.0	30.0	15.0	15.0
台湾	40	25.0	42.5	22.5	7.5	2.5
その他東南アジア	45	22.2	51.1	15.6	8.9	2.2
その他南米	15	33.3	40.0	13.3	-	13.3
その他	80	12.5	26.3	21.3	27.5	12.5

#### 年代別

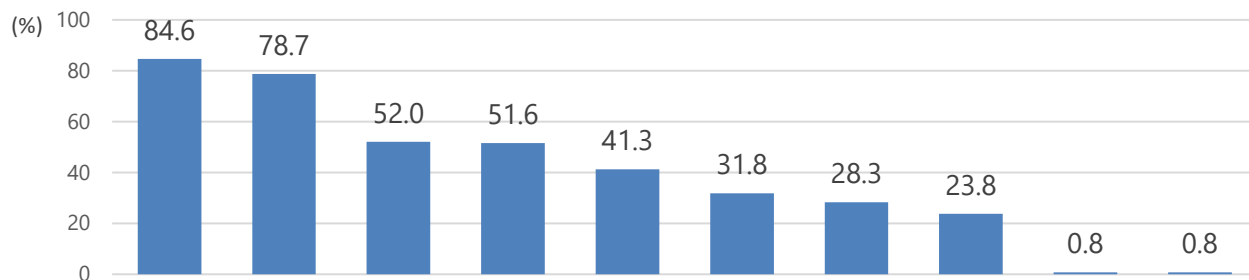


## ■ コロナウイルス感染に関する防疫行動

### 3 防疫行動の実施状況は性別により若干の差がある

- コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」については、「手洗いやアルコール消毒」が84.6%と最も多く、次いで「咳エチケット・マスクの着用」が78.7%、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」が52.0%となり、これらが主な防疫行動となる。
- 一方で、コロナウイルス感染症の症状の特徴的な把握方法である「体温測定」については、全体で28.3%と概ね4人に1人程度しか実施しておらず、特に男性が低い。
- 性別に「防疫行動」を見ると男女に大きな差がある項目がある。  
「良く触れるものの消毒や洗浄」では男性が33.8%であるのに対して、女性では50.1%となり差がある。また、「屋内の換気」では男性が46.8%であるのに対して女性では57.0%となり、この両項目においてその対策実施は女性が男性を上回っている。

#### Q43-2 コロナウイルス感染に関する防疫行動について



	n	手洗いやアルコール消毒	咳エチケット・マスクの着用	手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない	屋内の換気	良く触れるものの消毒や洗浄	うがい	定期的な体温の測定	同居者のタオル類の使い分け	その他	特になし
全体	999	84.6	78.7	52.0	51.6	41.3	31.8	28.3	23.8	0.8	0.8
男性	538	84.6	77.0	50.4	46.8	33.8	32.3	22.3	23.8	0.6	1.1
女性	461	84.6	80.7	53.8	57.0	50.1	31.2	35.4	23.9	1.1	0.4

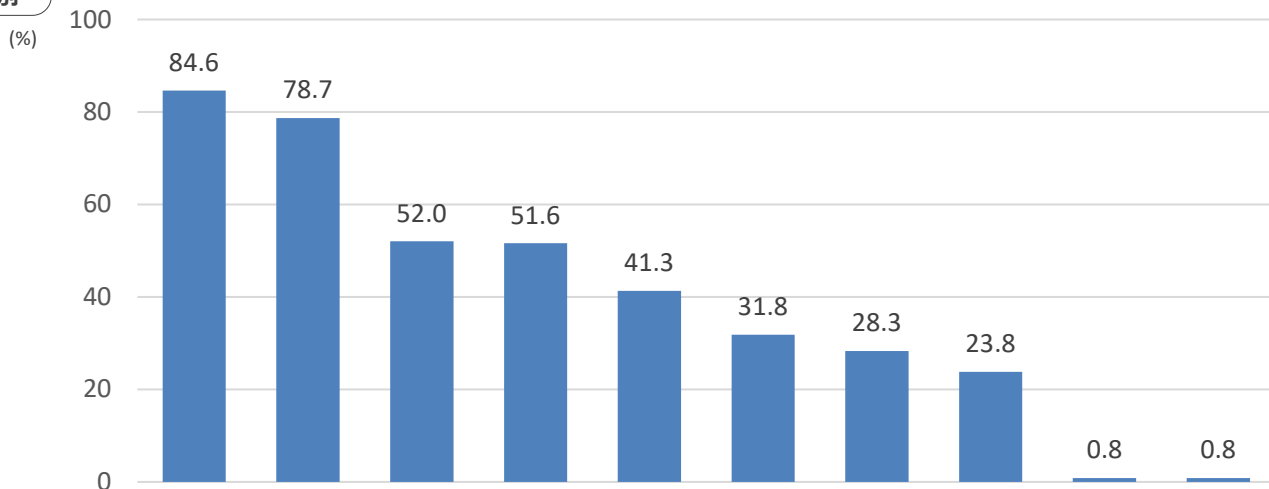
## ■ コロナウイルス感染に関する防疫行動

### 5 防疫行動の実施項目は「アメリカ」で多く、「ネパール」で少ない

- コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」ごとに出身国別に特性を見る。
  - ・ 「手洗いやアルコール消毒」については、「アメリカ」「台湾」で実施が多く、「ネパール」「ベトナム」で低くない。
  - ・ 「咳エチケット・マスクの着用」については、「アメリカ」「台湾」で実施が多く、「ネパール」「その他東南アジア」「その他南米」で少ない。
  - ・ 「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」については、「アメリカ」「その他東南アジア」で実施が多く、「中国」で低くない。
  - ・ 「屋内の換気」については、「アメリカ」で多く、「その他東南アジア」「ブラジル」で少ない。
  - ・ 「良く触れるものの消毒や洗浄」については、「アメリカ」「その他南米」で多く、「ブラジル」で少ない。
  - ・ 「定期的な体温の測定」については、「アメリカ」「韓国」「ネパール」で多く、「その他南米」「中国」で少ない。

### Q43-2 コロナウイルス感染に関する防疫行動について

国籍別



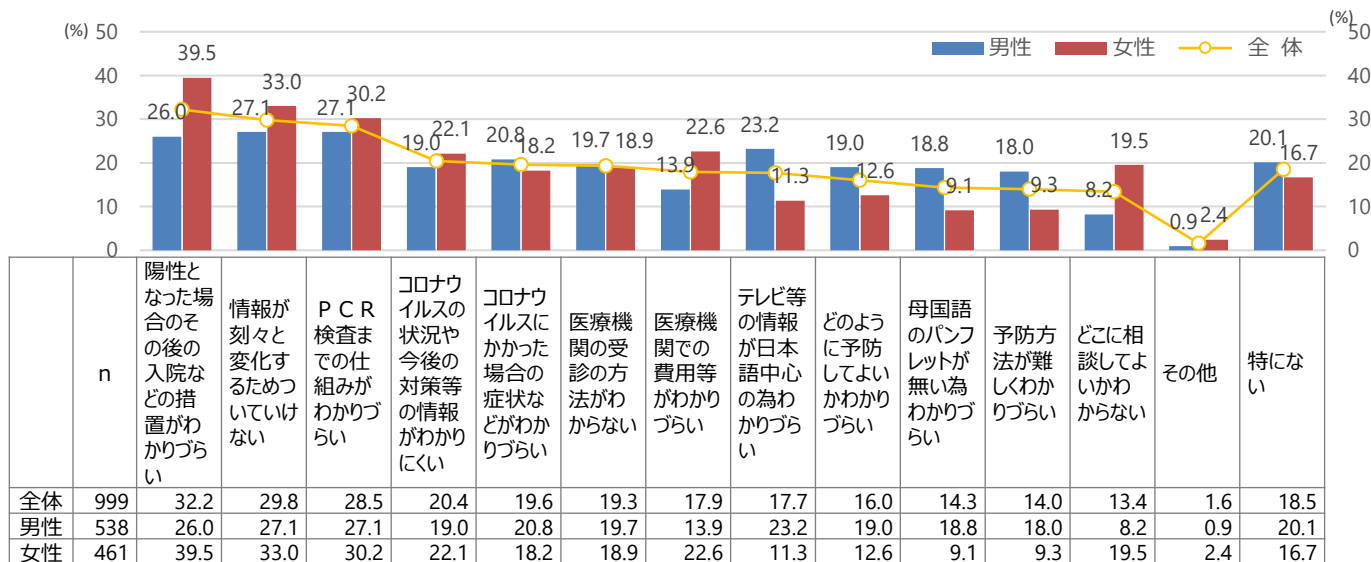
	n	手洗いやアルコール消毒	咳エチケット・マスクの着用	手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない	屋内の換気	良く触れるものの消毒や洗浄	うがい	定期的な体温の測定	同居者のタオル類の使い分け	その他	特になし
全体	999	84.6	78.7	52.0	51.6	41.3	31.8	28.3	23.8	0.8	0.8
中国	260	88.5	78.8	38.1	48.8	33.8	18.8	18.1	15.0	-	0.8
韓国	150	80.7	76.7	51.3	54.7	40.7	42.0	39.3	21.3	0.7	2.0
フィリピン	100	87.0	83.0	47.0	59.0	45.0	42.0	28.0	23.0	2.0	1.0
ブラジル	79	83.5	83.5	65.8	36.7	27.8	26.6	20.3	31.6	-	1.3
ベトナム	160	78.1	75.6	58.1	53.1	53.8	50.0	35.6	35.6	-	-
ネパール	50	74.0	62.0	58.0	50.0	36.0	32.0	38.0	32.0	-	-
アメリカ	20	100.0	100.0	75.0	70.0	65.0	25.0	40.0	40.0	-	-
台湾	40	100.0	87.5	67.5	52.5	52.5	25.0	20.0	17.5	-	-
その他東南アジア	45	80.0	66.7	64.4	35.6	48.9	24.4	26.7	26.7	2.2	2.2
その他南米	15	80.0	66.7	73.3	46.7	60.0	53.3	13.3	40.0	-	-
その他	80	88.8	87.5	50.0	62.5	35.0	16.3	33.8	16.3	5.0	-

## ■コロナウイルス感染に関して困っている事項

### 6 コロナウイルスに関する困難事項は「入院措置」や「情報変化・理解」が主な内容

- コロナウイルス感染症に関して困っている事項については、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」が32.2%と最も多い。次いで、「情報が刻々と変化するためついていけない」29.8%、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」で28.5%となり、この3項目が困っていることの主な内容となる。
- 性別で特徴的な項目を見ると、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」、「情報が刻々と変化するためついていけない」、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」という全体の主要項目では女性の方が困難さを感じている人が多い。一方、男性では「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」や「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」という、日本語に対する困難さが顕著にあらわれている。
- 「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」との回答は、「男性30代」で28.6%と最も多く、「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」との回答も、「男性30代」で24.7%と最も多くなっており、男性30代の言語関連に課題を感じている。  
「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」との回答を出身国別にみると、「ベトナム」が22.5%と最も多く、次いで「ネパール」が22.0%となり他の国よりもここを課題とする人が多い。「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」との回答を出身国別にみると、「ベトナム」が22.5%と最も多く、次いで、「フィリピン」が22.0%と次いでいる。

### Q43-3 コロナウイルス感染に関して困っている事項



#### 性年代別

性別	年代	テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい (%)	母国語のパンフレットが無いわかりづらい (%)	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい (%)
全体	n=999	17.7	14.3	32.2
男性	20代 n=180	17.2	8.3	22.8
	30代 n=283	28.6	24.7	29.3
	40代以上 n=75	17.3	21.3	21.3
女性	20代 n=174	13.8	9.2	42.5
	30代 n=223	9.9	10.8	39.0
	40代以上 n=64	9.4	3.1	32.8

(%)

#### 国籍別

国籍	テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい (%)	母国語のパンフレットが無いわかりづらい (%)
全体	17.7	14.3
中国	21.9	12.3
韓国	10.0	11.3
フィリピン	21.0	22.0
ブラジル	10.1	13.9
ベトナム	22.5	22.5
ネパール	22.0	12.0
アメリカ	5.0	5.0
台湾	12.5	5.0
その他東南アジア	15.6	11.1
その他南米	20.0	20.0
その他	16.3	10.0

(%)

## ■コロナウイルス感染に関して困っている事項

### 7 出身国別困難事項では「情報変化・理解」問題も課題

- コロナウイルス感染症に関して困っている事項について、出身国別に上位項目を見ると下表に示す一覧になる。
  - 中国については、「検査・医療関連」に対して回答が高い。特に「陽性になった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」との回答が44.6%とトップ。
  - 韓国についても「情報の変化・理解」がトップで、「検査・医療関連」に対して回答が多い。
  - フィリピンについては、「情報の変化・理解」がトップで、「次いで「検査・医療関連」
  - ブラジルは「特にない」が45.6%とトップ。
  - ベトナムは韓国と同様で「情報の変化・理解」がトップで、「検査・医療関連」に対して回答が多い。
  - ネパールは「情報の変化・理解」がトップで、特に「予防方法がわかりづらい」が多い。
  - アメリカはブラジル同様に「特にない」が45.0%でトップで、「検査・医療関係」に対して回答が多い。
  - 台湾は「検査・医療関係」を課題視している。

※下表に示すように「〇〇関連」と分類している項目を「色で分類」している。

#### Q43-3 コロナウイルス感染に関して困っている事項

単位：%

	1位	2位	3位
中国	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 44.6	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 30.4	● 情報が刻々と変化するためついていけない 28.8
韓国・	● 情報が刻々と変化するためついていけない 36.7	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 32.0	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 31.3
フィリピン	● コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 37.0	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 34.0	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 29.0
ブラジル	● 特にない 45.6	● 医療機関の受診の方法がわからない ● 情報が刻々と変化するためついていけない 15.2	
ベトナム	● 情報が刻々と変化するためついていけない 41.9	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 34.4	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 33.1
ネパール	● 情報が刻々と変化するためついていけない 38.0	● 予防方法が難しくわかりづらい 26.0	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 24.0
アメリカ	● 特にない 45.0	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 30.0	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらいどこに相談してよいかわからない 25.0
台湾	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 40.0	● 医療機関での費用等がわかりづらい 37.5	● 特にない 32.5
その他東南アジア	● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 42.2	● 情報が刻々と変化するためついていけない 33.3	● 特にない 31.1
その他南米	● コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい ● PCR検査までの仕組みがわかりづらい 40.0		● テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい ● 母国語のパンフレットが無い為わかりづらい ● どのように予防してよいかわかりづらい ● 医療機関の受診の方法がわからない ● コロナウイルスにかかった場合の症状などがわかりづらい ● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 20.0
その他	● 陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 31.3	● 特にない 28.8	● 情報が刻々と変化するためついていけない 23.8

● 検査・医療関連 ● 日本語関連 ● 情報の変化・理解関連 ● 予防関連



## ■ ワクチン接種状況

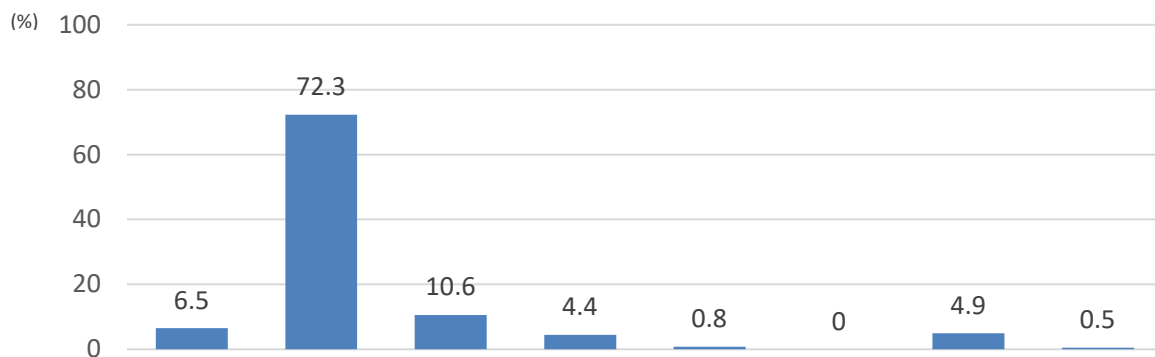
### 7 ワクチン接種は「20代男性」で他年代より低い

- コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の状況について聞いた。

調査時点でのワクチン接種状況は「2回目の接種まで終わっている」との回答が72.3%、「3回目の接種まで終わっている」は10.6%でこれらを合わせた「2回目以上の接種完了率」は82.9%となる。

- 性年代別で「2回目の接種まで終わっている」との回答を見ると「男性の20代」で51.9%と他の年代よりも低く、「3回目の接種まで終わっている」(12.2%)を加えても64.1%となっている。一方で総じて女性がどの年代でも接種率は男性より高い。

### Q70 ワクチン接種状況



	n	1回目の接種だけ終わっている	2回目の接種まで終わっている	3回目の接種まで終わっている	接種券が届いていたが接種をしていない	接種券が届いておらず接種をしていない	接種券が届いているが疾患等理由があり医師から止められている	接種するつもりはない	わからない	
全体	999	6.5	72.3	10.6	4.4	0.8	-	4.9	0.5	
男性	20代	180	12.2	53.9	12.2	4.4	2.2	-	15.0	-
	30代	283	6.0	80.6	9.2	2.1	0.7	-	1.1	0.4
	40代以上	75	5.3	58.7	20.0	10.7	1.3	-	2.7	1.3
女性	20代	174	4.0	81.6	6.9	2.3	-	-	4.6	0.6
	30代	223	4.9	74.9	9.9	5.4	0.4	-	3.6	0.9
	40代以上	64	6.3	68.8	14.1	9.4	-	-	1.6	-

## ■コロナ禍における自身の生活等の変化

### 7 コロナ禍で自身の変化

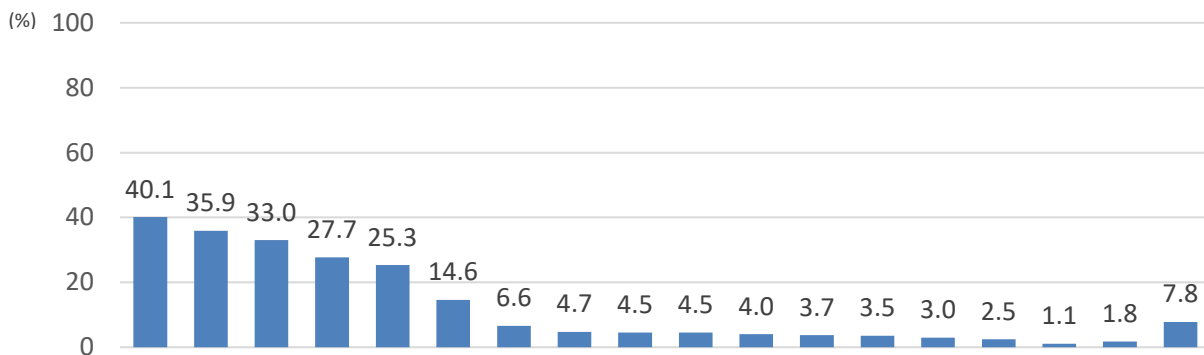
- コロナウイルス感染症の蔓延・拡大での自身の変化について聞いた。

全体では、「帰国できなくなった」との回答が最も多く40.1%、次いで「収入が減った」が35.9%、「好きなことを制限されている」が33.0%とこれらが上位項目となっている。

- 「帰国できなくなった」との回答が目立ったのは、「女性20代」48.3%と「女性30代」47.5%で総じて女性に多い。

「収入が減った」との回答は、「男性40代以上」で49.3%と約半数にも上る。また、同様にこの年代では「生活が苦しくなった」が33.3%、「就職先が見つからない」が12.0%といずれも他の性年代よりも多くなっている。

#### Q71 コロナ禍における自身の変化



	n	帰国できなくなった	収入が減った	好きなことを制限されている	ストレスが溜まっている	生活が苦しくなった	自分が濃厚接触者になったことがある	就職先が見つからない	勤め先等が潰れた	自分が感染したことがある	家族間でトラブルが起きている	決まっていた就職先に就職が出来なくなった	高校や大学に通学が出来なくなった	仕事を解雇された	病弱になった	専門学校や大学に入学できなくなった	住まいを失った	その他	特に変わったことはない	
全体	999	40.1	35.9	33.0	27.7	25.3	14.6	6.6	4.7	4.5	4.5	4.0	3.7	3.5	3.0	2.5	1.1	1.8	7.8	
男性	20代	180	23.3	38.3	24.4	14.4	25.0	8.9	8.3	5.6	5.6	2.8	5.0	6.1	4.4	1.7	1.7	0.6	-	8.9
	30代	283	41.7	38.5	24.7	21.2	23.3	23.3	4.9	4.6	3.5	2.1	3.5	1.1	2.8	0.7	0.7	1.4	1.1	6.0
	40代以上	75	34.7	49.3	26.7	28.0	33.3	13.3	12.0	8.0	2.7	6.7	5.3	8.0	6.7	5.3	6.7	2.7	5.3	8.0
女性	20代	174	48.3	30.5	39.1	29.3	27.6	6.9	4.0	1.7	4.6	3.4	4.0	3.4	3.4	4.0	1.7	0.6	0.6	10.3
	30代	223	47.5	30.9	47.5	43.0	23.8	14.8	7.6	4.9	5.8	7.6	3.1	2.7	2.7	5.4	2.2	1.3	3.6	7.2
	40代以上	64	39.1	34.4	34.4	35.9	25.0	14.1	6.3	6.3	3.1	9.4	4.7	7.8	3.1	3.1	10.9	-	3.1	7.8

## ■サーベイリサーチセンター 会社概要

---

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
  
- 設立 : 1975 (昭和50) 年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 97億円 (2021年度)
  
- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員305名、契約スタッフ435名 合計740名 (2022年4月1日現在)
- 事業所 : 東京 (本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
  
- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
  
- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会  
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会 (JMRA)  
日本災害情報学会  
一般社団法人 交通工学研究会 他
  
- その他 : ISO9001認証取得 (2000年6月)  
プライバシーマーク付与認定 (2000年12月)  
ISO20252認証取得 (2010年10月)  
ISO27001認証取得 (2015年11月) ※

※認証区分及び認証範囲 :

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

## ■本件に関するお問合せ先

---

**株式会社サーベイリサーチセンター** <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当 : 松下 正人 E-mail : src\_support@surece.co.jp  
品質部  
TEL : 03-3802-6779 FAX : 03-3802-6729
  
- 調査担当 : 石川 俊之 E-mail : ishi\_t@surece.co.jp  
岩崎 雅宏 E-mail : iwa\_m@surece.co.jp  
営業企画本部  
TEL : 03-3802-6727 FAX : 03-3802-7321
  
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです